

野次と人権

S・K

あなたは「野次」を知っていますか。国語

辞典で調べると、「野次」とは、「やじるこ

と」とあり、さらに、「やじる」を調べてみ

ると、「非難やからかいの言葉を発する」と

ありました。スポーツをやっている人には、

ピンとくる言葉かもしれません。

僕は野球をやっています。野球では、「野

次」が戦術の一つとして、よく用いられます。

僕も何度も使ったことがあります。しかし、

僕はある試合から、「野次」について深く考

えるようになりました。

「あんなピッチャーの投げる球なんて、余裕

で打てるやん！」

「ストライク、全然入らへんぞ！」

試合になると、いつも僕はこのような「野

次」を飛ばしていました。

投手を精神的なところから崩す」という意図

がありまします。しかし、大抵は軽い気持ちで言

つたり、ときには事実でないことを言ったり  
したこともあります。  
僕は小学生の時からずっと捕手でしたが、  
最近肩の強さを買われて、投手もやるよう  
になつてきました。  
投手になつて、いろいろ感じるようになり  
ました。その一つに、「投手は孤独だ」とい  
うものがあります。捕手のときは、バッター  
や八人も仲間が視界にいました。マウン  
ドに登ると、これがバッターとキャッチャー  
だけになります。そうです、投手は孤独に戦  
うものなのです。  
僕は初登板のときのこと忘れられません。  
練習ではストライクがよく入っていたのに、  
試合の緊張と不安はそれを許してくれませ  
ん。でした。「ストライクが入るだろうか。」  
「め  
った打ちにあわないだろうか。」などの暗い想  
像に心がつぶされ、四球を連発、大量失点、  
いつの間にか試合は僕の手によつてぶち壊さ  
れていました。自分一人だけで投げているよ

うな感じがして、周りに味方が八人もいなか  
ったような気がしました。試合後、そのとき  
感じた孤独感と試合を壊した申し訳なさから、  
僕は一人で泣き続けました。  
しかし、試合を重ねていくうちに、味方の  
存在を感じながら投げられるようになり、ま  
た、「野球はいつも、投手から始まるんだ、  
投手が試合の主導権を握っているんだ。」と、  
投手というポジションのやりがいを見つける  
こともできました。

そして迎えたある試合。僕は途中で、リリ  
ーフ投手としてマウンドに登りました。「捕  
手Ⅱ脇役。投手Ⅱスター」と考えていた僕は、  
心も体もすぐくウキウキしていました。  
さて、先頭打者は相手投手でした。これを  
全球全力ストレートでねじ伏せ、次打者を迎  
えたとき、相手ベンチから、こんな言葉が飛  
んできました。  
「ボールばっか、ボールばっか」  
「相手はくそピッチャー、くそボールやで！」

それは、生まれ、初めて浴びた「野次」で、  
落ち込みました。しかし野次はやまず、どん  
どんエスカレートしていきま。す。  
「黙れ！ そんなの、強がりや！ おれはお  
前らを完璧に押さえとるやないか！」「怒りは  
憎しみへと変わっていきます。」「とにかくあ  
の投手が憎い。落胆させてやりたい。」  
心を憎しみに支配された僕は、次の回から  
は、いつもの倍以上強く「野次」りました。  
しかし、実際にはそれは、「野次」という盾  
を利用した「けなし」でした。  
「野次」はひきょうです。試合が始まると  
まず野次を飛ばし、投手は心を乱され、四球  
を連発したりめった打ちにあったりします。  
そこでまた「野次」が飛ぶ。めった打ちにあ  
う。そこでまた：：。「野次」はこのよう  
悪循環を招きます。相手の弱さにつけ込むと  
ころは、いじめ、つまり人権を侵害すること

た	「お前なら打てる」	「野次」	に	力	を	奪	わ	れ	た	ボ	ー	ル								
な	ら	打	て	る	」	と	言	っ	て	い	た	の	が	、	こ	の	後	に	は	、
こ	の	試	合	を	き	っ	か	け	に	、	前	は	「あんな投手							
た	も	の	「	と	考	え	る	よ	う	に	な	り	ま	し	た	。				
相	手	の	心	を	ま	っ	た	く	考	え	な	い	、	人	権	を	無	視	し	
て	、	「	野	次	」	に	つ	い	て	、	「	た	と	え	戦	術	で	も	、	
あ	っ	た	僕	は	、	こ	の	事	実	に	気	づ	き	ま	し	た	。	そ	し	
時	間	を	経	て	少	し	づ	つ	冷	静	さ	を	取	り	戻	し	つ	つ		
と	同	じ	で	す	。															
最	高	の	ス	イ	ン	グ	で	!	」											
「	勝	負	だ	っ	!	お	前	の	最	高	の	ボ	ー	ル	と	お	れ	の		
と	の	勝	負	で	は	な	く	、	相	手	投	手	の	超	最	高	級	の	ボ	
ー	ル	と	の	勝	負	を	常	に	望	ん	で	い	ま	す	。					